

【別紙2】訓練に用いる特別車両・災害対応用機器等

訓練項目（1）：ヘリ搭載用災害対策機器運搬車

◆名称・仕様

ヘリでの輸送を可能にした「ヘリ搭載用災害対策機器運搬車」
(軽トラ仕様 2台/四輪駆動車仕様 1台)

◆機能・特徴

自然災害等で陸路が遮断された場合も、ヘリで空輸できるように小型に改良された特別車両。
従来の災害対応用機器の運搬だけでなく、車両も空輸できることで、被災地域での移動が容易となり、迅速な通信サービスの確保を可能にします。
2015年3月導入。陸上自衛隊との協同訓練での空輸は今回が初めてです。

◆参考：今回の訓練で搭載する機器

- ・無線によるN T T 中継回線応急復旧用装置
(可搬型デジタル無線装置11 P -150M)
- ・組立て式ポータブル衛星

【新規導入】



訓練項目（3）：ポータブル衛星車

◆衛星アンテナを搭載した特別車両で、1台につき、最大8回線（電話回線・インターネット回線）の利用が可能。通信が途絶している住民避難所等へ出動させ、特設公衆電話、インターネットサービスを提供します。



訓練項目（4）：ブロードバンド救済無線

◆アンテナを用いた無線中継により、インターネット回線（フレッツV P Nワイド）を提供します。また、ここにW i - F i ルーターを接続することで、避難所等へW i - F i によるインターネット接続サービスの提供が可能です。



訓練項目 (5) :
可搬形デジタル無線装置 (11 P-150M)

N T Tビル間を結ぶ中継回線が災害等により切断した場合、無線による中継回線 (伝送路) を構築するものです。



訓練項目 (6) :
加入者ケーブル多重伝送装置 (U M C 1000)

災害等により通信ケーブルが切断された際、加入者回線 (避難所、お客様宅等を繋ぐ通信回線) を復旧するための装置です。訓練ではこの装置を用い、村役場災害対策本部、住民避難所等への通信サービス (固定電話、ひかり電話・インターネット接続回線等) の提供を行います。



訓練項目 (7) :
マルチヘリによる現地被害状況調査訓練

被災現場など、人が立ち入れない場所の被害状況確認や、通信ケーブル敷設に使用します。



訓練項目 (8) :
ランチャーによるケーブル敷設訓練

被災現場などにおいて、人や工事車両が近づけない河川や谷を越えて通信ケーブルを敷設する際に使用します。



訓練項目 (9) : 穴掘建柱車

架空ケーブルが被災し、重要ユーザへの通信断、また電柱の傾斜、及び折損により交通に支障を与えている垂れ下がりケーブルの復旧に使用します。



訓練項目 (10) : 移動電源車

長時間停電が発生し、N T T局舎や無線基地局の予備電源 (バッテリー、エンジン) が停止した場合等に出動し、電力を提供します。これにより、停電による通信サービスの途絶を防ぎます。

